

山町 ベンショ塚古墳出土 古墳時代中期（5世紀）



甲冑

古墳時代中期には古墳に鉄製の武具や武器が多く納められるようになります。ベンショ塚古墳は、全長が約70mある中規模の前方後円墳ぜんぽうこうえんぶんです。奈良市南部に勢力をもった豪族の墓と考えられ、甲冑や武器、馬具が副葬品ふくそうひんとして納められていました。冑かぶとはひさしが付いた帽子の形をしており、鉄小札てつこざねを鉾びょうで留めてつくっています。甲よろいは短甲と呼ばれる上半身をおおうもので、三角形の鉄板を革ひもで綴あじ合わせています。鉄鏃てつぞくや馬の鞍金具くらかなぐも出土しており、甲冑を着て馬にまたがる古墳時代の武人の姿がうかがえます。



鉄鏃



鞍金具 前輪



鞍金具 雲珠



鞍金具 後輪